

SSKU

お元気ですか?
イリアンソス
です。

2011



生活寮「にじ」・「かぜ」にて、バーベキューの様子

理事長の散歩道

ケースワークの道 ③

特集

「生活寮「にじ」・「かぜ」

～開所までの歩み～」

「いっしょに東久留米で

暮らしていくということ」

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F 兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

理事長の散歩道



ケースワークの道 ③

「受けとめる」

社会福祉法人イリアンソス
理事長 山田耕一郎

東日本大震災の影響下にあって、やや沈んだ控えめな状況に合わせるように、今年もやつと桜が咲きました。その花群を見上げると、なぜかホッとした気分がしました。

そして、更にみんなの心をはげますように、ツツジが華を咲かせてきました。ところで、ケースワークの原則に「個人としてとらえる」「感情表現を大切にする」「自分の感情を自覚して吟味する」という3つの原則があることを紹介しました。そして、4番目に「受けとめる」というのがあります。

(第四原則) 受けとめる

「受けとめる」とは、3つの事柄に対して用いられる。

- ① 物に対して・・・「贈り物を受けとめる」(受領)
- ② 知識的概念に対して・・・「民主主義の概念を受けとめる」(容認)
- ③ 人に対して・・・「謙虚に受けとめる」つまり、支援者が利用者さんを受けとめる時は、まず人としての尊敬の念に基づ

かなければならない。しかし、現実にはなかなかそうスムーズにいかない。なぜか？それは、受けとめる上での障害が8つもあるからである。

- ① 人間行動に関する十分な知識を持たないこと
 - ② 支援者が自己を受けとめられないこと
 - ③ 自己の感情の責任を利用者さんに転嫁すること
 - ④ 偏見と先入観に支配されていること
 - ⑤ 口先だけで励ますこと
 - ⑥ 受けとめることと許容することを混同すること
 - ⑦ 利用者さんに対する敬意を払うこと
 - ⑧ 利用者さんに過剰同一視をすること
- 一つ一つの内容は重い。あえて、説明は控えておこう。相対するケースの中で、乗りこえていく時、支援者としての技量が磨かれる。
- このたび大震災の残した瓦礫と化した我が家の前で、母を失った少女はこの現実をなかなか受けとめられなかったであろう。海に向かって、母の魂に響けとばかり鎮魂のトランペットを吹く姿が朝日新聞に掲載された。このことが機縁となつて、平成23年5月23日に東京に招かれプロの演奏者とともに「負け

ないで」を演奏した。演奏を終えたとき彼女は演奏者として笑顔で幕間に下がった。しかし、鳴りやまぬカーテンコールの拍手に迎えられる、号泣しながら「復興をになうのは、私たち若い世代です。悲しみに負けないで生きていきたい。」と挨拶した。この少女は、はじめて現実を受けとめたのである。

のぞみの家の施設長も、5月16日から21日まで被災地へ行った。その体験談を私たちに報告してくれるだろう。大自然の爆発的なエネルギーによって引き起こされた震災の残した多くのものに何をどう受け止めることができたか。その報告は、我々イリアンソスのスタッフの一人一人の技量を高めることに繋がるものと思われる。

本当の苦労を体験してはじめて人を尊敬でき、障害とともに生き抜いている利用者さんの表面だけではなく、奥深い人間性を受けとめることが出来るのである。

簡単にはなかなか「受けとめる」ことはできない。だからこそ、この金棒を、うまずつままず自分なりに磨いていこう。



生活寮「にじ・かぜ」へ開所までの歩み

2011年4月、当法人のグループホーム「生活寮にじ・かぜ」をみなさんのお力添えで開所する事が出来ました。開所式当日は入居される方を含め多くの関係者の方に出席いただきました。改めて多くの方の協力の元、この日を迎えられたのだと実感しました。

さて、開所に向けて当法人でも様々な準備や運動をおこなってきました。

住みなれた街で自分らしく暮らす。この当たり前の要求を関係者、職員みんなで実現していこうと努力してきました。また、地域の方々にも障害があっても地域で暮らす大切さを訴えていきました。法人の全職員が主体的に生活寮づくりにかかわり、議論できるようなとりくんできました。そのとりくみの中から今回は『全体職員会議』『マラソンスピーチ』『建設準備会』『資金づくり』の様子を紹介します。一人ひとりの暮らしに何が大切なのかを考えてきました。

今後もしも温かい目で当法人を見守って頂けると嬉しく思います。

『全体職員会議』 利用者主体を目指して

2011年2月16日、新生活寮「にじ・かぜ」の開所に向けて、法人では全体職員会議が開かれました。

内容は、スタッフが事前に新入居者のお宅に訪問させて頂き聞き取りしたことの報告と、その報告を元に、いくつかのグループに分かれ「利用者が何を求めているのか』『どんな暮らしをしたいと思っているのか』について議論し、議論したことを全体に発表するというものでした。

この会議の前に用意され配られた資料は、新入居者十四名分のフェイスシートと、議論するに当たってのポイントでした。

私達は、資料を基にグループに分かれ、対象になっている人にとって大切となってくるであろうポイントについて、意見を出し合いました。

どんなことが好きなんだろう？仕事から戻った後は一人でのんびり過ごしたいかな？食事は？一人でのんびり食べたほうが美味しい



かな？それとも皆と一緒にのほろが楽しく食べられるかな？…という様に、環境や余暇、体調面や医療面でも想像を膨らませ、意見を出し合いました。最後は本人に成り代わり（なりきって）全体の前で発表をしました。

紙面上での資料ではうかがい知ることの出来ないひととなりや、発表者の声や口調から感じ取ることが出来、生活のイメージに繋げることが出来た様に思います。

個人的な話で恐縮ですが、私は福祉の現場職に就いて十数年、イリアンソス勤務は今年



の夏で丸2年となります。これまで勤務していた法人の会議の内容というのはいつも、利用者主体というのは建前で実際には法人や職員側の都合が先立っての話し合いです。長くその様な中に身を置き、それが当たり前の意識となってしまうというものが、恥ずかしながら正直なところです。

今回の全体職員会議は、新生活寮『にじ・かぜ』に向けての話し合いですでしたが、現在所属している生活寮『うみ・そら』でも、利用者主体という大切な視点を強く意識し、勤務に当たりたいと思います。

生活寮「うみ」 坂本 一美

『マラソンスピーチ』

～住み慣れた街で～

昨年11月27日、東久留米市役所の隣の東和銀行前にてマラソンスピーチを行いました。

私自身初めてで、マラソンスピーチとは何のことなのか？今ひとつイメージが湧きませんでした。しかし、利用者さんと一緒に横断幕を作ったり、準備をしたりしているうちに『障害があっても私たちもここで暮らしている、生まれ育ったこの場所ですと暮らしていきたい。』という想いを市民の人たちに伝えていくのは大切なことで、そのための取り組みがマラソンスピーチだと知ることができました。

当日は、のぞみの家、活動センターかなえ、なかまの家、生活寮そらの利用者さん、家族、スタッフでちらし配りやスピーチ、後援会で募金集めなどをしました。一日の取り組みなのでスピーチを皆で繋げていきました。

土曜ということもあり人通りも良く、「何をやっているのだろうか？」と前を通って行く方、「知っているわよ。あそこの施設の人達でしょ？」と声をかけて下さる方、利用者さんの呼びかけにチラシを手にとって読んで下さっている方もいて、嬉しく思いました。

スピーチでは何人かの利用者さん、家族が日頃感じていることや想いを訴えました。

のぞみの家 木下美樹さんのスピーチです。

『私は養護学校を卒業して、のぞみの家で働いています。』

25歳です。

私が日頃から想っていることを伝えます。

私は障害を生まれつき持っていますが、普通の女の子として、

普通のことを普通に生きていきたいと常に思っています。

例えば、お買い物やカラオケや、仕事もします。

もちろん恋愛もします。

一人でできないことは多いですが、みなさんと同じような暮らしをして生きていきたいです。

そのために、例えば、安全な歩道にしてもらったり、

一人でお買い物に行ったときにスーパーの高い戸棚のものを取って

もらったり、広いトイレがあるといいです。

私はトイレが一人で行けないので、一人で長時間の外出ができません

ん。介助してくれるトイレがあったら最高です。

一度しかない人生を、一瞬一瞬後悔しないように生きていきたいです。

そのためには地域の方々の応援が必要です。ぜひ温かく見守って下さい。

木下 美樹』

当日は多くの方々に協力いただきました。本当にありがとうございます。

のぞみの家 酒井 忠志



『建設準備会』

『新たな生活の場』

新設寮の開設にあたって・・・『かぜ』にも負けず力強く、『にじ』のように華やかに健やかに

イリアンソスには昨年まで、ケアホームの女子寮（うみ）男子寮（そら）の寮がありました。これからもっとケアホームが必要不可欠になることと考え続けてきましたが、その思いが今年から新たに始まる、女子寮『にじ』男子寮『かぜ』を立ち上げることができました。

入居者が住みやすい空間、環境を目指し建設委員会を発足させ、スタッフで約9ヵ月間にわたり、計画を立てました。

われわれがどのような支援ができるのだろう、どのようにしたら住みよい生活ができるだろうと、『うみ』『そら』の経験を活かしながら、入居者の支援計画を考えていきました。また、入居者、家族との面談をし、聞き取りも行いました。

設計士を通して意見を交わしながら、他の施設に見学足を運び、実際目で確認し参考にしました。スタッフ、入居者の希望をふま

えながら、間取り、部屋の位置、配線の取り付け位置、色あいを決めていきました。利用者さんにとって家族から離れ、新たな生活の場になります。生活のリズムを築き、そして社会への自立の一步を手助け出来ればと願いをこめて、新たな寮のスタートを切ってみる予定です。

なかまの家 廣 智章



生活寮地鎮祭の様子

『資金づくり委員会』

くみんなの力で美味しさお届けく

資金づくり委員会では、各施設より職員が参加して定期的に会議を行い、お米を販売することで生活寮建設の資金をつくることになりました。最初のお米の販売は、法人大バザーで野菜と一緒に試食販売を行いました。たくさんの方に実際に試食してもらい、たくさんのお米を販売することができ、良いきっかけができました。今回のお米の販売では資金づくり委員会の職員だけではなく、利用者も地域にチラシを配ったりして積極的に販売をしてきました。

注文をもらうと仕分けを行い配達もおこないます。法人関係者だけではなく、ご近所の人など、さまざまな人に買ってもらうことができ、生活寮の必要性、福祉に関わる情勢の話をすることもできました。

お米の配達の時にとっても印象深いことがありました。ある利用者がお米の配達に行くことになりました。その配達先の一つに自分の家がありました。普段は自分の家によつたりすると家に帰りたくなってしまうですが、今回は、自分の家にお米を届けるとトイレだけ済ませて『次の配達があるから』とすばやく車に乗り込みました。お母さんが、後日ノ

トにその様子を書いてこられ、とてもうれしかったそうです。

今回の大きな目的は新しい生活寮の資金づくりでお米の販売をしましたが、このような利用者の様子を見ることができて利用者、職員ともに良い経験をすることが出来ました。

活動センターかなえ 田中 淳一



生活寮開所式の様子



法人行事

『リサイクル久留店』

くるとん

のぞみの家 チャレンジ班が中心となって、手作りキーキなども販売しています。

◎日程：6月30日(木)

7月21日(木) 28日(木)

8月4日(木) 18日(木)

◎場所：滝山団地センター前広場

※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

『のぞみの家作品展』

◎日程：8月2～5日 10時～17時

(最終日は16時)

『イリアンソス夏祭り』

◎日程：7月23日(土) 17時～

ご寄付をいただきました。

(4月11日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

稲田 三郎様

西川 恵美子様

ありがとうございます。

編集後記

新緑が目眩しい季節です。花々の鮮やかな色や、木々の静かなたたずまいに新鮮な感動を覚えます。何度見ても見飽きないものですね。毎日毎日、時間に追われがちな日々ですが、一日一回は、深呼吸をして、空を見上げ、体で自然を感じていたいのです。

わたしが借りている駐車場は、大きな桜の木の下にあります。春は、満開の花の中花びらが舞い散り、花びらで花化粧をしたように車が薄い桃色に染まります。これか

らの梅雨の季節、たくさん雨が降りますが、大きな木のたくさん葉っぱたちのおかげで雨やどりが出来ます。つい、鬱陶しいと思ってしまうがちな季節ですが、雨にぬれ、色鮮やかになる葉や、花たちを楽しみ心を常に持っていたいと思います。

広報誌づくりに携わり2年目となりました。みなさんに楽しんで読んでいただける紙面をつくっていききたいです。また、1年間、よろしくおねがいします。

編集委員 池田苗生子

編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています！

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円